

自然数についての哲学者の直観とはどういうものか

川居慧士 (Kawai Satoshi)

慶應義塾大学文学研究科

真理理論をめぐる議論において、理論がどのような目的のもとにどのような特徴を備えているべきか、ひるがえって言えばどのような特徴を備えているべきではないかは大きな問題である。その種の問題のうち、オメガ矛盾した真理理論に関する否定的言説は、それが真理概念に求められる要求という観点からなされるというよりも、むしろ理論一般に対するオメガ無矛盾性の要求という観点からなされるという点で興味深いといえる。なぜなら、この種の批判の精密化は、哲学者が自然数理論を伴う理論に関していかなる直観を持っているかを明確化することにつながると考えるからである。

本発表では、まずは H. Field が *Saving Truth from Paradox* で言及した自然数についての直観を明確化する。その次に明確化された直観に基づいていかなる手段でオメガ矛盾した真理理論を却下できるかを考察する。そのうえで想定される却下理由に対する反論を推論的理由とモデル存在上の理由から考察する形で哲学者がオメガ矛盾した真理理論を却下する際にどのような直観や前提に基づいているかの精密化を試みたい。